

## 唐津のヨット仲間たち

四月 桜も散り そろそろ海に出たいなあと思うころになると

どこからか声が響いて来る。

「そろそろ何か言い残しておくことなあーい」

「話すならいまのうちよおー」

白髪の方の やさしい声が降ってくる・・・

私はまたまた昔はそれなりに可愛かった方のため 恥をさらして筆を持つはめになるのです。

そんなわけで今回はヨット仲間の唐津人を三人紹介しましょう、三人とも仕事とは言え日本のため重要な仕事に赴いた方達です。日本の北から南まで国益を守る仕事に働いた方が案外身近にいるのだとあらためて思いました。

では最年長が富永隆太氏（80歳） 前田國臣氏（69歳） 松浦一成氏（64歳）の三名です。昔の写真を引きずり出して九州の海も一緒にご紹介します。

「大阪城はだれが作ったの？」

「太閤さん！」

「ブーブー」 「大工さん」 程度のお話ですがご了承を。

まずは富永隆太氏を紹介します。

昭和11年(1936)生まれで年齢80歳。



愛艇美郷（みさと）のキャビンにて一杯飲んで頬が赤いです、日本酒が大好きで航海中も必ず毎晩1合ほど飲みます。人生経験も豊富で知恵と知識のかたまりの人物です、歳の功を感じさせます。

日本有数のクレーン工事会社に勤めていられて今は退職して植木屋をされています。54歳の頃仕事とは言え誰もが行くこともかなわぬ東京からはるか南1700キロの「沖の鳥島」の防波堤建設に携わったそうです。

八丈、小笠原を過ぎて幾夜か寝つる

硫黄島も過ぎ やっと届きし沖の鳥島 とまあこんな感じの距離かな。

島と言っても今は畳二枚の面積しかないサンゴの岩でこれを守るため鋳鉄製のテトラポットを周囲に積み上げ護岸を築きあげたそうです。それまであったコンクリート製では軽くて波浪に流されサンゴ礁を砕いてしまったそうです。

平成2年に60人程の人員で4カ月間作業船での生活で時化たり台風が来る度に遠くの洋上に離れたり小笠原島に戻っての缶詰生活だったそうです。ご本人に写真を探してもらいましたが見つからなかったとのことでした。

「サンゴ礁の中に足はキノコのごと細くなって立っただけですよ」

「下の方は細くなって今にも倒れそうですもんね」

「周りば固めんことにゃ、どやんもこやんもならんとですけどね、触ったらいかんそうですもんね」

「波が当らんごと鉄製のテトラポットで囲み、チタンの網をかぶせて来たですよ」

とは現場にたずさわった人の言葉です。

沖の鳥島の現況を見たい方はぜひこちらを開いてください。

[「沖ノ鳥島」の検索結果 - Yahoo!検索 \(画像\)](#)

この岩一つで日本全土と同じ面積が排他的経済水域として漁業権が確保されています。島が無くなったら漁業権どころか海底資源まで日本の一大損失になります。

さて当人がヨットを始めたのは60歳になってから、以来コツコツと腕を磨き八十になった今でも一人で平戸島や隣の的山大島（あずちおおしま）まで出かける腕前、年に一回、属する唐津オーシャンセーリングクラブで五島周や九州一周などに同行していますが、ちょっと時化て来た時私がセールを締めましょうかと言っても「おまえはシャバカなあー」と逆に気合を入れられます、濡れたカップでは夏でも日が沈めば寒さがしみこみますのでホッカイロを腰に貼ろうとすると七十ジジィの私を八十の爺さまが若造扱いして笑う始末です。

後はあちこちでの記録写真をご覧ください



五島の教会で記帳をする富永氏  
いままでに世界遺産申請中の長崎のレンガの教会群を8か所近く見学しました。



美郷号 「ピーターソン 33 フィート」  
船齢 40 年になる老艇ですが少々の波にもびくともしません、たった 18 馬力のエンジンですが波にもガンガン突き進んでいきます。



五島 中通り島の頭ヶ島教会  
長崎の教会群でこの教会だけはレンガではなく信者が一つ一つ積み上げた石で出来ています。貧しい信者達はレンガが買えず海辺の石を削って積み上げたそうです。すぐ隣にはその信者たちのキリシタン墓地があります。

五島 若松瀬戸  
若葉が海面近くまで茂り湖のような海面でした。五月は若葉の色もさまざま、いろいろな緑に包まれてさわやかな航海でした。



奈良尾港の浮棧橋の下  
五島列島の中央ほどにあり対馬暖流が直接当たる島です、イソギンチャクもカラフルで泳ぐ魚はまるで熱帯魚でした



#### 五島御井楽の柏崎灯台

これより西に島は無く遣唐使船の日本最後の湊です。

灯台の下には石碑やら弘法大師の像が東シナ海を望み立っています。

五島福江島 大瀬崎灯台  
いつもは数メートルの大波に洗われる岬もこの日は穏やかでした。

遠くからはゴジラとも龍の顔とも見えました。



#### 五島 野崎島 平成 25 年



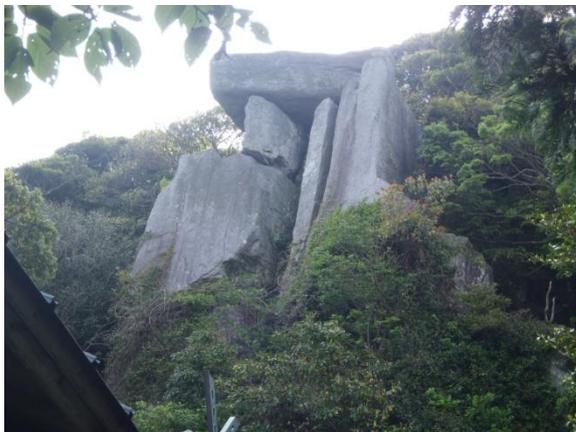
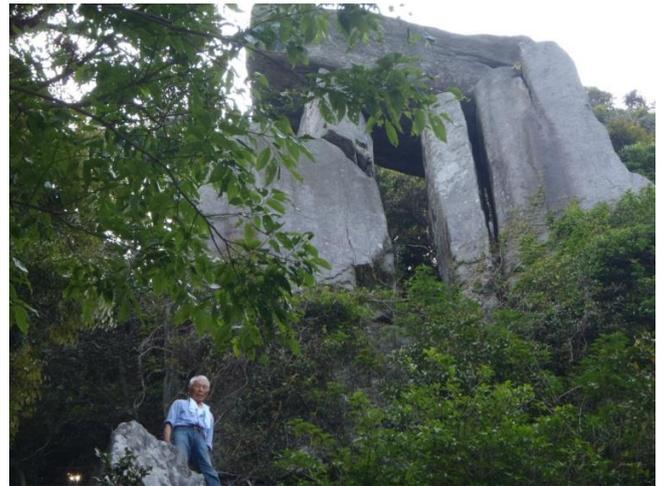
#### 五島野崎島

野首教会に行く途中で見える白砂に真っ青な海がきれいな浜です。



五島野崎島の野首教会です  
白砂の海岸に赤いレンガの教会が  
この島の見どころです、もうひと  
つが次の王位岩です。  
その王位岩まで往復四時間を歩い  
た富永氏、つえを持って教会の前  
に立っています。

野崎島 王位岩 (おえいわ)  
部落を抜け歩くこと2時間、山の稜線  
を超え裏側に回ると高さ20mを超える巨岩  
が数本現れます。二本の巨石の上には人の手  
で水平に置いたような5坪ほどの広さの石  
舞台があります。



やしろの裏を登るとこの石柱の上に乗  
ってる石舞台が目前に見ることがで  
きます。本当に自然の妙には驚かされ  
ます。



遠くに見えるのが鹿の群れです  
無人島の野崎島には九州鹿が群  
れを作って住んでいます、草を食  
べてしまい赤土が流れて地肌が見えています。

今日の釣果 満足そうです・・・  
ではなく隣の漁船から 1000 円で買  
ったアラ 2 尾。 鹿児島県甬島にて



魚ってなかなか釣れるものじゃないです  
ね。枕崎港では市場でカツオを買い食べ  
ました。本当においしいカツオでした。  
「カツオは枕崎にかぎる」と実感中

平成23年の九州1周の折の記録です



薩摩硫黄島（鬼界ヶ島）をバックに富永氏と私、

鬼界ヶ島とも呼ばれ平安の昔、俊寛僧都が「返せ～戻せ～」とご赦免船に向かって叫び狂った島です。

薩摩硫黄島（鬼界ヶ島）の遠望  
山の上にたなびくのは雲と硫黄の煙でした。硫黄鉱山では最盛期に2000人程の鉱員が働いていたそうです。



電子海図で見る硫黄島  
赤線の上が枕崎港で中央下が硫黄島、右下は種子島  
5,4ノット（時速10キロ）で航行中の表示が出ています

鹿児島県 硫黄島港

港内は硫黄と海水が反応して赤茶色に変色しています。防波堤の外は青色が残っています。ここではフジツボは船底に付きませんがプロペラが腐食するそうです。



港の半分は高い絶壁に囲まれていて安全な場所です、オーストラリアからのヨット「TWEED号」も私たちの後に入港してきました。美郷より大きいヨットを 60 代の夫婦二人で航海されていました。

この時は枕崎港から 4 人程合流して硫黄島、屋久島へと渡りました。

前列左から 梶山 前田 江口  
後列 江頭 松尾 諸岡 富永





### 硫黄島の露天風呂

濃い明礬泉で顔を洗うと目がチカチカ痛みました。屹立する奇岩を楽しみながらの入浴はたとえがたいものでした、負けじと風呂の縁に七人並んで立ち太平洋に向かって吠えました。また行きたい島ですが唐津からは往復 10 日ほどかかります、簡単ではありません。

### 鹿児島県 口永良部島 (くちのえらぶじま)



昨年 5 月に噴火した口永良部島の岸壁で。 島には売店が一軒しか無く名物焼酎「三岳」を買おうとしたら 1 本しか売ってくれませんでした、島の者に売る酒が無くなるからという事でした。

屋久島の西隣の島です。

### 屋久島紀元杉の前で・・・

ほかにも千尋の滝とか驚きの景色がたっぷりの屋久島でした



## 2 人目は松浦一成氏を紹介します

昭和 29 年(1954)生まれで 63 歳

元唐津市役所職員



前列がセーリング中の松浦氏  
です、唐津湾沖の烏帽子灯台。  
高さ 50 メーターほどの玄武岩で  
出来た島です。

東日本大震災の復興の一助にと市役所を早期退職して出かけて行きました。今度は環境庁の国家公務員となって平成 24 年からの三年間、土木建築の経験を生かすべく働きました、あちらでは瓦礫焼却場の設計建築の仕事に奮闘したようです。去年へとへとになって帰ってきました

とにかく口を開けたら「福島は大変ですよ！」ばかり、  
「猪どころか熊が無人の町をのしのし歩いていますからね！」と  
「住民は大変ですよ！」の繰り返し。

くどいけどすごく大変な思いの仕事を三年続けたみたいです。

それ以上はあまり喋りません、復興資金の使い方には不満が山ほどありそうです。

お役人は口が堅いです。

でも「ゼネコンのやりたい放題ですよ」と憤慨はしていました。

市役所在職中には西帰浦市役所（済州島）に半年出向したことがあり韓国語に堪能。特技は酒の付き合いは絶対に断らない事。

韓国では「あなたはいちばん韓国人らしい日本人だ」と大そうに褒められたと苦笑いしていました。

ヨットの上でもセールを上げたらビール飲みましょうか、風が吹いても呑みましょうか、風が止んでもちょっと呑みましょうか、が十八番。焼酎の 1 升くらいいつの間にか空になっています、倒れるまで呑んで付き合う韓国人には受けが良かったらしいです。



福岡県小呂の島 左端が松浦一成氏

クラブ員として唐津の姉妹都市麗水市や西帰浦市、釜山へのセーリングに参加、頑丈な頼りになる体格をした仲間です。



平成 22 年釜山クルーズ

釜山の街をバックにして満足そうな松浦氏です。

最後は前田國臣氏 昭和 22 年(1947)生まれ 年齢 69 歳 元水産庁に勤務

水産庁の漁業監督官でした、違法操業の船を探して南は中国漁船との戦い厳しい尖閣列島、北は凍てつくオホーツク海、日本海では韓国、中国入り乱れての違法操業船を捕まえては片っパシに送検し日本の国益を守るべく荒れる海で奮闘努力されていました。



現役時代の前田氏（左側）、  
乗船中の取締船船長と

怪しい外国漁船を見つけては操業日記と魚種に漁獲高など詳しく調べ、とにかく曲がったことが嫌いな人物です、私ごときは付き合うのに苦労させられています。

2012年釜山クルージングの帰りに対馬の厳原で帰国申請をした時入港申告時間より2時間30分早く接岸したところ海上保安部から申告時間より早すぎる「2時間なら認めるがそれ以上早い場合は連絡を入れろ」とクレームがついたことがありました。

韓国ヨットマンから日本一厳しいと評判の厳原保安部に対し「ヨットだから時間は不確定だ！」と反論する前田さん。半日やり合って結局始末書を書かされましたが今でも「あの保安官はなんだ」と腹を立てている、ことほど左様に歩く時も直角に曲がりかねないと思うほどの堅物です。

そんな彼ですがアマチュア無線とパソコンにはやたらに詳しくいつも助け舟をお願いしているのが私です。



福江島荒川港にて平成27年  
かつての五島捕鯨の証として鯨の  
あご骨が港の隅に立ててあった、  
はたして全長何メートルになる鯨  
だったろうか、その巨大さには畏  
怖の念さえ浮かびました。

鹿児島坊津沖にて

ヨットに飛び込んできた小鳥、島影一つ見えない洋上ではよくあること、速度の遅いヨットは飛び込みやすいようです。濟州島に行った時は大きな白鷺が飛び込んできた事もありました。

[女将のご挨拶 87](#) 参照



ちょんちょんと飛び回り前田さんの肩にひと休み、キビタキかなと思ったけどどこか違う、尾の白い線に特徴があるので野鳥に詳しい方はすぐ分かるかも？



平成 22 年 韓国濟州島クルージング



はた目には優雅に見えるヨットですが嵐のときは雨がッパの脱ぎ着もままならず濡れたままキャビンで二時間交代の仮眠を取ります。

写真では水平に見えますが 15 度から 25 度ほど傾いているキャビンです、どちらかと言うとシートではなく背当ての部分に寝ています。

大きい事を成し遂げたわけではありませんが、以上が私の身近にいる日本の礎の仕事をした三人でした。皆な歳は取ってもそれなりに退職後の人生を楽しんでおります。

最後まで読んでいただき感謝します。

ご質問は下記の江頭義輝のアドレスまで

[pepetamaya@vc1.people-i.ne.jp](mailto:pepetamaya@vc1.people-i.ne.jp)